

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
80	川崎市立白幡台小学校	田村 光司

学校教育目標	今年度の重点目標	
<p>「心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成」</p> <p>大切な自分、大切な人に気付き、自立する児童を育てる</p> <p>(知) しっかり学ぶ……確かな学力を培う教育の推進 (徳) ゆったりかまえる……思いやりの心を育み、豊かな人間性の育成の推進 (体) たっぷりうごく……健康・安全教育の推進</p>	<p>しっかり学ぶ (1)楽しく学べる学校 (2)きれいな学校 ゆったりかまえる・たっぷりうごく (3)元気で明るい学校 (4)保護者や地域と力を合わせる学校 上記の4観点を受け 「子ども達による学習習慣と生活習慣を」 を重点テーマに据える。</p>	<p>(1)基礎基本の定着を図る。 →学習意欲を伴った学力を伸ばす (2)学習環境づくり →安全面の配慮 (3)児童支援の充実・安全安心の確保 →キャリア在り方生き方教育・SOSの出し方 受け止め方教育の推進 (4)PTA・地域との協力 →地域の寺子屋事業とのより一層の連携</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 1 しっかり学ぶ (1)楽しく学べる学校	<p>★学習意欲を伴った学力を伸ばす(児童) ○学習指導要領に沿った白幡台小学校の児童にあったカリキュラム(白幡台プラン)の実践・検証・再編成を行う。</p> <p>○学年、低中高学年部会、校内での協力体制や授業形態の工夫、モジュール学習時間の充実を図る。 ○コーディネーターを中心にして、学習形態を工夫し、計画的に行い、わかる学習をさらに目指す。 ★指導力の向上(教員)</p>	<p>○学校アンケートの結果からは91パーセントの児童が「授業が分かる」との回答があった。しかし、児童の結果と保護者の結果には温度差が感じられた。授業で分かったと感じる児童も多いが、学習の定着という視点からは課題が残った</p> <p>○専科教員による授業を展開したり、学年に応じて授業形態の工夫を実施したりすることが定着している。専科教員の指導が系統立てて行われる強みが学びの連続性として位置づいている。一方で、取り出し指導においては、担当する教員の確保が難しい。</p> <p>○校内研究として国語科を中心に全職員による共同研究を実施した。お互いの授業を公開し、協議を重ねることで指導力の向上に努めている。</p>	<p>児童が「わかった・できた」という達成感や成就感を継続して大切にしていく。家庭との連携を密に行いながら、意欲をもって家庭学習にも取り組むことができるよう学習の定着を図っていく。</p> <p>次年度も児童数減に伴い1クラス減となってしまう予定である。単学級が増えてくることを見据えて少人数指導を行う学年・教科を増やし、きめ細やかな対応の継続を図っていく。</p> <p>指導体制の見直しとして、授業の入り込み指導を中心に新たな方法を模索していく。</p> <p>今後も専科教員とも連携を図り、経験の浅い教員も含めて全職員で共同研究を継続していく。</p>
2 2 (2)きれいな学校	<p>★学習環境づくり ★安心・安全の確保 ○老朽化した校舎内外の施設を見直し、改善計画を立て校内の環境整備を続ける。 ○各教室や教材室、廊下、玄関のいたるところを整理整頓し、安全面にも気を配る。 ○新型コロナウイルス感染症に対応した消毒、換気など感染対策に配慮する。</p>	<p>○空き教室を各学年ごとに有効活用できるよう工夫し、感染予防対策として密にならない学習環境を整えてきた。</p> <p>○次年度より校舎再生整備事業が開始されるにあたり、喫緊度の高い改修箇所の最終点検を行い、今後に向けて安全で使いやすい校舎となるような話し合いを持った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザ等にも対応した消毒、換気などの対策を川崎市のガイドラインに沿って継続して実施する。</p> <p>再生整備事業実施にあたり、学校生活時における児童の安全確保に、より一層の注意を払っていく。</p>

3	<p>ゆったりかまえる・たっぷりうごく (3)元気で明るい学校</p>	<p>★児童支援の充実 ○校内の支援体制づくりを継続発展する。 ○保護者支援も含め、児童が安心して過ごせる学級体制づくりをおこなう。 ○児童支援の情報交換を密に行い、学校全体で支えていく。</p>	<p>○支援教育コーディネーターのきめ細やかな体制作りが、校内の支援体制として構築されている。保護者との連絡を密に取り、保護者に寄り添った対応を心がけてきた。一方で学校として考える児童の成長につながるための方策も提示してきた。必要に応じて外部機関とつなげたり、校内支援をさらに充実させたりしてきた。</p> <p>○ケース会議が必要な場合には速やかに開催することができている。多方面からの情報交換や今後の児童支援について確認し合い、学校全体としての支援体制を強化した。</p> <p>○キャリア在り方生き方教育については、全体計画を意識した取組を進めてきた。SOSの出し方・受け止め方教育にもいち早く取り組み、その様子を広く発信することができた。</p>	<p>小規模校の課題の一つとして、支援教育コーディネーターの仕事内容が多岐に渡るため、全職員で情報共有をしておくべき事案が増えることが予想される。情報の扱いに最大限留意しつつ、常に職員間での共有がスムーズに行われるようなシステム化を構築していく。</p> <p>共生・共育の活動を充実させるとともに、次年度以降もSOSの出し方・受け止め方教育をカリキュラムに位置付けていく。</p>
4		<p>★いじめ防止</p>	<p>○いじめ防止基本方針を基に全職員で共通理解を図った。保護者にも理解を得ながら教育活動を行うことができた。</p> <p>○学級担任一人で抱え込むことの無いよう、支援教育コーディネーターを中心とした組織での対応を構築し、対応を重ねることができた。</p> <p>○児童の登校確認ができない場合には素早く保護者へ連絡・確認し、確実に安否確認を行うことを継続し、定着させた。</p>	<p>引き続きいじめ防止基本方針を遵守し、組織としていじめ防止に対応していく。</p> <p>外部機関との連携を確認し、次年度以降にも継続して生かしていく。</p>
5		<p>★体力づくり・食育推進</p>	<p>○体育専科教諭による体育科の授業を実施し、子どもが運動の楽しさを味わうことができるよう努めてきた。外部スポーツ団体を積極的に招致し、運動に関わる環境づくりにも取り組んできた。スポーツテストの結果にも体力向上の数値が表れた。</p> <p>○食育教育においては、栄養士が授業を行い、食についての理解を図っている。</p>	<p>子どもが体を動かす機会の保障として、今後も学校体育の授業を充実発展させていく。</p> <p>「体力づくり」に関連する子どもの自治的活動としての委員会活動がより一層機能していくように働きかけ、楽しく体を動かす時間を確保する。</p> <p>食育教育の実践を広め、授業参観等でも保護者の方々に見ていただく機会を設定していく。</p>
6		<p>★働き方改革</p>	<p>○継続して職員会議案件は、分掌担当が事前に教務会に諮る等の工夫により精選・効率化を図っている。</p> <p>○教員用PCを有効活用し、普段からの伝達が定着してきた。</p> <p>○教職員の休憩時間確保のため、例外はあるが休憩時間には会議を入れないことが定着してきた。</p>	<p>特にクラス担任が「仕事のやりがい」と感じている子供とのふれあいや授業準備の時間を確保できるよう、引き続き努めていく。</p> <p>会議を開催する場合には、効率よく内容を事前通達し、大切な内容がしっかり話し合える時間を確保する。特に会議の終わりの時間に留意する。</p>

7	(4)保護者や地域と力を合わせる学校	<p>★学校評価・学校説明会・学校報告会</p> <p>★PTA・地域の協力</p>	<p>○昨年度は紙面報告だった学校評価の考察を学校報告会で報告することができた。概ね好意的な評価をいただいている。</p> <p>○学校教育推進会議では委員の方々に対し、子ども達が主体となって一年間取り組んできた学校生活の様子を発信することができた。</p> <p>○感染症予防対策を講じ、PTA主催によるバザーを、ダディサポーターによるふれあいサマーキャンプを開催した。</p> <p>○避難所運営会議主催の避難所体験をかいさいすることができた。</p>	<p>学校評価の中には少なからず課題もあるので、特にwithコロナ,GIGA端末の活用などがキーワードとして挙げられている。次年度以降も取り組み内容を積極的に発信し、保護者・地域に広く周知を図っていきたい</p> <p>次年度より学校教育推進会議が「コミュニティスクール」に移行することが決まった。より強固な体制づくりを図り、保護者・地域との連携を築いていく。</p>
8		<p>★地域の寺子屋事業との連携</p>	<p>○感染症予防対策をしっかりと行い、寺子屋事業を再開することができた。寺子屋先生が優しく接してくださるので、児童も寺子屋先生との交流を楽しみにしている姿も見られた。地域との連携の一つが再開できたことが成果である。</p>	<p>継続して寺子屋事業との連携を図っていく。寺子屋の活動内容を、より積極的に発信していくことで参加人数の増加にもつなげていきたい。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・先生と児童の距離間がよく、子どもがニコニコして学習に取り組んでいた。 ・高学年のミニエッセイ交流がすばらしい。先生からのコメントはもちろん、友達からの素敵な誉め言葉がたくさん見られました。クラスや学年の土台がしっかりしていて温かみがありました。 ・児童への配慮は、児童数の多い少ないではないことが分かる。 ・学校を楽しむために委員会の取組や縦割り活動など自分たちからチャレンジしている姿があった。 <p>子ども達が安心して授業に取り組んでいる。自己肯定感の数値も昨年より高くなっているので、今後も継続してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革は、仕事のやりがいを落とさないためにも地域の人材活用を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な児童数の大幅な増加は見込みが薄いですが、今できていることを中心にお褒めの言葉をいただいた内容を継続発展させてまいります。それが、白幡台小学校の身の丈に合った学校経営につながると強く感じました。次年度からは、学校教育推進会議からコミュニティスクールに移行します。引き続き、地域の学校を支えていただける力強いお言葉を頂戴しました。